【別紙様式２】（小学校用）

フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	豊田郡安浦町立安登小学校								
学　年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	1	2	2	2		１０	１５
児童数	２９	４３	３６	５０	５２	４３		２５３	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

基礎・基本の定着を図る授業の創造
～しっかり聞き，話し，考える子～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

○１～４学年　　国語・算数
・児童の理解に差が出やすいので，きめ細かな指導により，基礎・基本の学力の定着を図るため
５・６学年　　国語・算数・理科・家庭科・音楽・体育
・教科担任制を取り入れ，質の高いわかりやすい授業をすることにより，基礎学力の定着に向けた学習の深化を図るため

(2)　年次ごとの計画

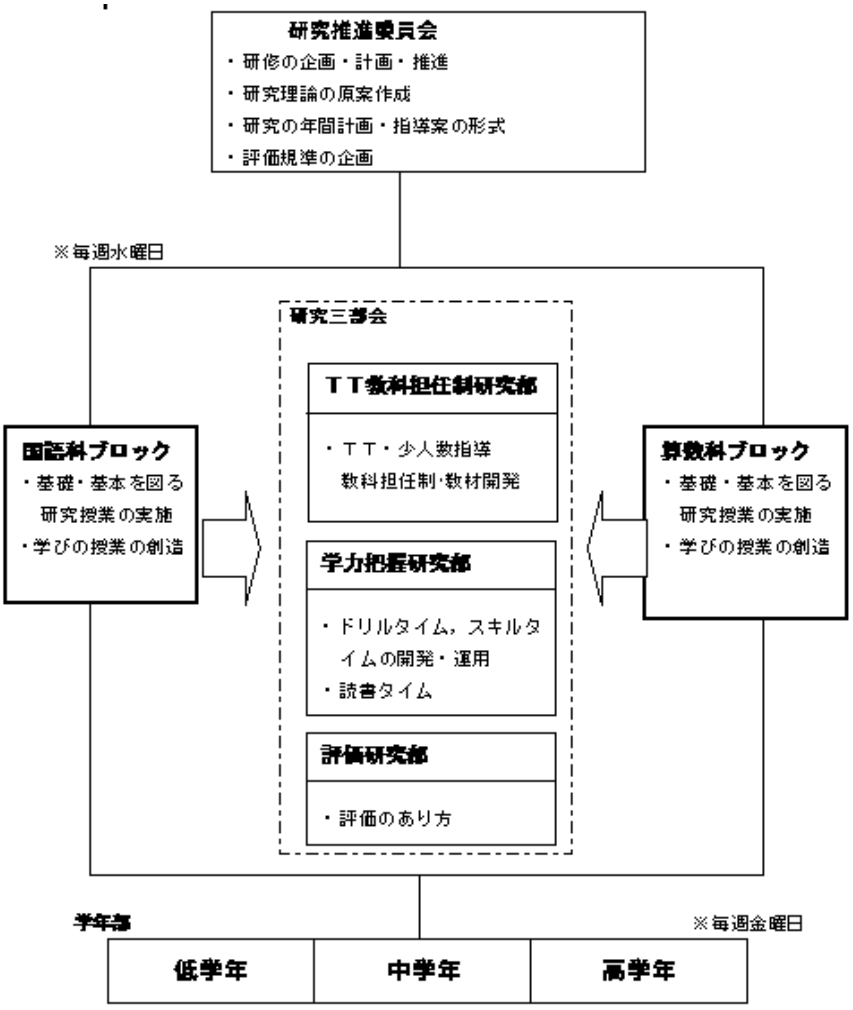
平成14年度	○　テーマ 基礎・基本の定着を図る授業をめざして ～しっかり聞き，話し，考える子～　（国語科・算数科を中心に） ○　研究の見通し（仮説） ・学力の基礎である聞く・話す力を培えば基礎・基本の学力が確かなものになるだろう。 ○　研究の内容・方法 ・　授業研究，TT指導，教科担任制 ・　読書タイム ・　ドリルタイム ・　スキルタイム

平成15年度	○　テーマ 基礎・基本の定着を図る授業の創造 ～しっかり聞き，話し，考える子～（国語科・算数科をとおして） ○　研究の見通し ・深く考える力を培えば，学習意欲が増し，新たな課題を見つけ，基礎・基本の学力が確かなものになるだろう。 次の考える力を育てる２つの過程を積み重ねていけば基礎・基本を身につけると考える。 ①１時間の授業の中に，課題づくり・個の追求（自力解決）の場・集団の追求（かかわり合い）の場を設定し，児童は，多様な考えに気づき，学びあう授業をする。 ②児童一人一人に応じたきめ細かな少人数指導・質の高い授業をめざした教科担任制を取り入れ，児童の実態に即した教材を開発して学習活動を展開する。 ○　研究の内容・方法 【内容】 ①　基礎・基本の定着を図るための学び合う授業の創造 ・　主体的な学習へつながる課題づくりと評価の工夫 ・　個の追求（自力解決）の場の工夫 ・　集団の追求（かかわり合い）の場の工夫 ②　基礎・基本の定着を図る指導方法・指導体制の工夫改善 ・　少人数指導の工夫 ・　教科担任制の工夫 ・　教材，教具の工夫 ③　基礎・基本をより身につける工夫 ・　読書タイム，ドリルタイム，スキルタイムの工夫 【方法】 ①　授業研究の視点を明確にして研究協議を行う。 ②　教材・教具の開発を行う。 【変更理由】 ・　基本的な研究計画は変わっていないが，具体的な研究の視点や内容について明確にする事により，研究の具現化を図ることが可能になるので追加記述した。

平成16年度	○　テーマ 基礎・基本の定着を図り，自ら学ぶ力を育てる授業の創造 ○　研究の見通し ・授業における支援のあり方を工夫・改善する事により，自ら考え，学ぶ力を育むことができるであろう。 ○　研究の内容・方法 ・　学び合う授業づくりの推進 ・　指導体制，指導方法の工夫改善 ・　読書タイム，スキルタイム，ドリルタイムの工夫

(3)　研究推進体制

○　本年度は，授業研究だけでなく，指導方法・指導体制の工夫改善や読書・スキル・ドリルタイムの工夫改善を図り，研究の検証を確かなものにするために，研究組織を次のように国語科・算数科の２ブロックと研究３部会を作り，２本立てで研修を進めた。

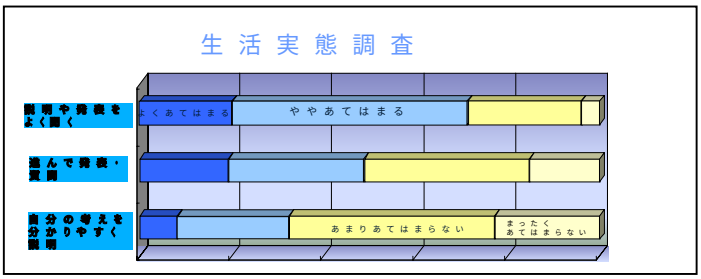


Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

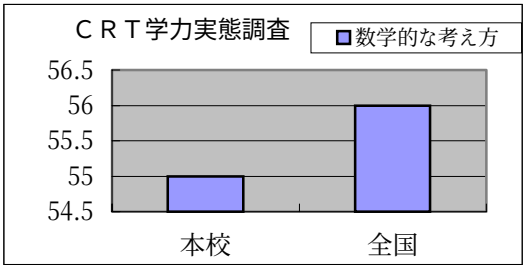
１．研究の成果

（１）　研究前の児童の状況及課題

昨年度からの取り組みにより，学習の基礎であるしっかりと聞き，話すことができつつある。児童の生活実態調査のアンケート結果（グラフ１）から，児童は『説明や発表を聞く』という項目では 70%があてはまると答えているが，『進んで発表したり質問したりすること』『自分の思いや考えを説明したりすること』を苦手としている。また CRT 学力診断テストの結果からも思考力が十分に身についていない傾向にある（グラフ２）。そのため自分の思いや考えを出し合った深まりのある授業になりにくい。



(グラフ１)



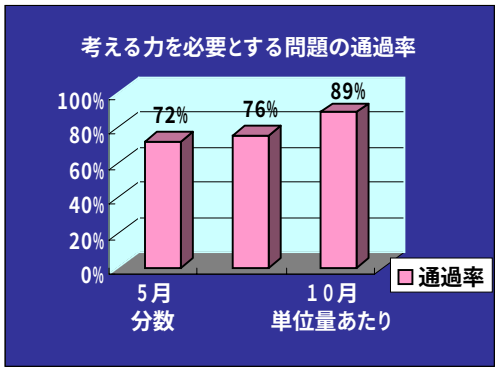
(グラフ２)

（２）　現在の児童の状況

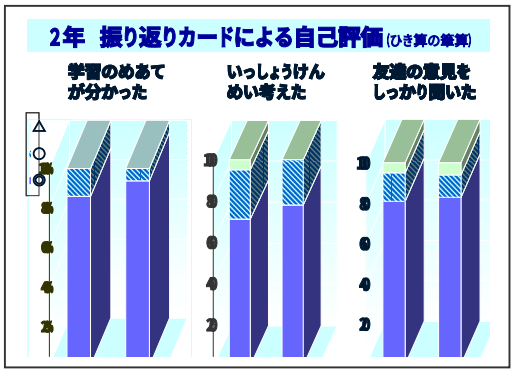
教職員の意識統一のもと児童は落ち着いた学習環境が確立できた。1 単位時間の学び合う授業や少人数指導の構築により友達の発表に関わらせて発言する場面も多く見られるようになり，「自ら学び考えようとする」意欲が感じられるようになった。6 年生において，課題である「考える力」の通過率 5 月が 72%，10 月には約 90%まで伸びた。（グラフ３）

２年生の算数科では振り返りカードによる　自己評価カードでは，学習課題の把握，学び合いで自分の考えを持つことができるなど７月から９月へ少しずつの伸びが見られる。（グラフ４）

教師にとって児童の自己評価から研究の３つの視点である課題作り･学びあい･目標の達成度など授業を振り返る機会となり，授業の改善につながっている。



(グラフ３)



(グラフ４)

（３）研究の具体

学び合いの授業づくりについての取り組み

１単位時間の授業構成を，つかむ・考える・深める・まとめるとし，授業研究の視点として，次の３つを設定し，授業実践を重ねた。

・視点１は主体的な学習活動へつながる課題作り・・・発達段階に応じた学習計画表の工夫，フラッシュカードの活用，並びに学習のねらいと評価規準にマッチした課題作り

・視点２は学び合いの工夫・・・自分の考えをもつために，①個の追究として，自力解決の場と時間の確保，ワークシート，ヒントカード，算数的操作活動などの工夫

②自分の考えを深めるために，集団の追究として，友達の意見と関わり合いの発言ができるように話し方をパターン化し，聞く・話す活動の重視（算数的コミュニケーション）

・視点３は確かな学力の定着を図るための工夫・・・ねらいにそった練習問題の充実。確かな学力の定着に向けて少人数指導や教科担任制を生かしたきめ細かな指導。
これを受け国語科・算数科ではそれぞれ「考える力」をつけるための授業を構築。

学びの授業をもとにした評価の取り組み

評価を指導に生かすことが一人一人の児童の基礎･基本の定着につながると考え，主に，指導案等における評価規準の作成と授業実践における評価方法について研究を深めた。指導案の指導と評価の一体化に向け，形式を改善した。特に，１時間の授業では，観点を１～２観点に絞って評価の重点化を図り，個別指導の時間を確保した。到達度を見取るための評価方法の１つとしてのワークシートは，学習の習熟や思考の状況を把握するために発達段階に応じて具体的に工夫した。何の観点で書かせるのかねらいをはっきりさせると評価しやすく，回を重ねるごとにねらいに迫ることができた。このように自己評価カードは自らの学習状況や自分を見つめ直す機会となり，次の学習意欲につながっている(グラフ５)。

(グラフ５)

また，児童のよさを積極的に見出す形成的評価を取り入れることにより，児童は自信を持ち，児童の学ぶ意欲につながってきている。

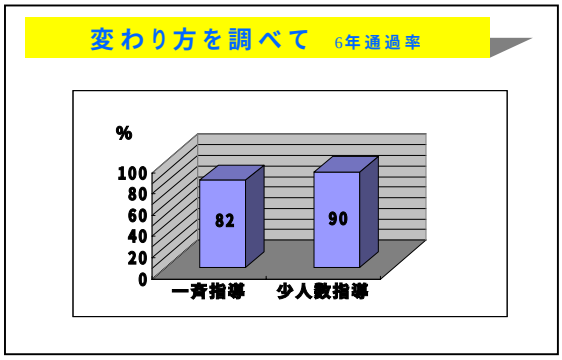
基礎・基本の定着を図る指導方法・指導体制の工夫改善についての取り組み

１学期のＰ･Ｄ･Ｃ･Ａにより，２学期から指導体制の見直しを図り，少人数指導は単元ごとに弾力的に取り組み，機能しやすくなった。

少人数指導では，理論と授業実践の両面から研究を進め，本校の少人数指導における取組みのプロセスの確立により，各学級で実践している。コース選択においてはプレテストをもとに児童の希望を大切にして教育的相談を取り入れながらコースを選択し意欲的に学習に取組むことができた。

国語科・・課題別，興味関心別学習
算数科・・課題別・習熟度別学習

６年生の「変わり方を調べて」の単元では児童の実態により，一方の学級では TT 一斉指導を，もう一方の学級では少人数指導に取り組み，その通過率を調べた。

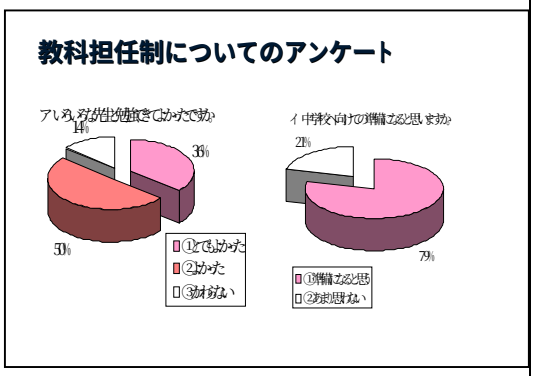


(グラフ６)

その結果，少人数指導に効果が表れていた(グラフ６)。少人数指導では，児童が「分かるようになりたい。」という学習意欲が強いほどその効果を上げている。

教科担任制

本校では，小学校から中学校への円滑な移行を目指して高学年による部分的教科担任制に取り組んできた。同学年による算数科・国語科の教科担任と TT 加配よる授業，専科による授業，同学年による交換授業と２/３が教科担任制となっている。その結果，児童のアンケートでは，「いろいろな先生と勉強できてよかったですか。」という質問に 86%の児童が「よかった。」と答え，「中学校へ向けての準備になると思いますか。」という質問に 79%の児童が「準備になる。」と答え，児童は教科担任制を肯定的に受け止め，多くの教職員と触れ合うことに喜びを感じている(グラフ７)。



(グラフ７)

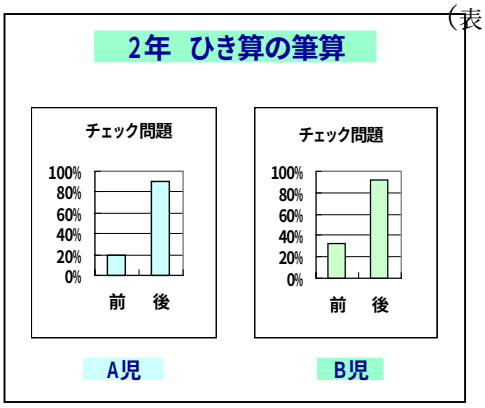
成果として，生徒指導面や学習規律の意識統一により，開かれた学級づくりとなった。また，より深い教材研究により，分かりやすい授業の工夫やよりきめ細かな指導をすることができ，確かな学力をつけていくことができると考える。

基礎･基本をより身につける工夫としての取り組み

国語科・算数科で学習した基礎･基本をより身につけるための工夫として，週時程表の中に，読書タイム・ドリルタイム・スキルタイムを位置づけた。スキルタイムは週１時間，国語科･算数科の授業として標準授業時間数より合計で 20～34 時間増とする。

ドリルタイム・スキルタイムの内容は，ＮＲＴ学力診断テストの実態（国語科は書くこと・読むこと，算数科は数量関係・数と計算などが全国平均に達していない。）により，国語科は視写，読解力，算数科は数と計算における単元重点項目を決め，ドリルタイムにおける教材開発として問題プリントを作成。

(表１)



(グラフ８)

（表１）のように 2 年生のひき算の筆算，チェック問題・前で個々のつまずきを一人一人捉える。指で数えたり，10 の補数が捉えにくかったりしていた児童も，２週間の個に応じた指導により，A 児は 90 問中 17 問から 81 問へ, B 児は 29 問から 83 問へと伸び, 正確に速くできるようになった(グラフ８)。チェック問題・後では，自己記録表など個々の伸びをチェックして認めたり，伸びた喜びを児童とともに共感する姿勢を大切にしたりする中で，意欲を持って取組む姿が見られるようになってきた。国語と算数を 2 週間ごとに繰返し継続して指導することにより，基礎・基本をより身につけることができ，ドリルタイムとスキルタイムを連動しての取り組みはより効果的だった。

２．今後の課題

（１）今後の課題

○　一人一人の実態に応じた，きめ細かな指導を充実し，基礎・基本の学力の確実な定着を図り，自ら学ぶ力を育てる授業の創造に取り組む。

【具体的な取り組み】

- 個に応じた少人数指導，習熟度別指導等の指導方法の改善と検証
- 教科担任制等の指導体制の改善と検証
- 個に応じた指導のための教材開発（ワークシート，ドリル，定着テスト）
- 評価を生かした指導と支援の改善

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○学力テスト	①教研式標準学力検査「ＮＲＴ」	平成１５年６月実施
	②教研式標準学力検査「ＣＲＴ」	平成１６年２月実施予定

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

【研究会・説明会等の開催】

○　学力向上フロンティア校として，取り組みを普及するとともに，交流実践する事により，「確かな学力」の向上に資することを目的として，次のように研究会及び研究協議会の開催を行った。

平成１５年　８月２７日　第２回　呉・賀茂教育事務所研究協議会
場所：安浦中学校・町民センター
対象：呉・賀茂教育事務所管内教職員
内容：公開授業，講演

平成１５年１１月２６日　安登小学校教育研究会
場所：安浦町立安登小学校
対象：広島県内教職員
内容：公開授業，分科会，研究報告，講演

平成１６年　１月２１日　第５回呉・賀茂地区研究協議会
場所：安浦町民センター
対象：呉・賀茂教育事務所管内教職員
内容：南地区３校実践報告，講評及び指導講話

【研究成果普及のためのＨＰ作成，パンフレット作成】

○　本年度の研究成果普及のためのＨＰ作成　２月実施予定
○　呉・賀茂南地区の２年次の研究成果のまとめをパンフレット（紀要）にまとめ，第５回呉・賀茂地区協議会において資料として配付

【フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績予定】
第３回広島県学力向上推進協議会　実践発表　　場所：東広島市中央公民館

【継続校において，研究成果の普及活動の成果（他校への反響等）などが見られた場合には，その点も記述すること】　本校研究会　　参加総数240名
呉･賀茂地区研究協議会　参加総数80名

◇　次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　■７～１２学級
□１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　■少人数指導　■Ｔ．Ｔによる指導
■一部教科担任制　□その他

【研究教科】　■国語　□社会　■算数　□理科
□生活　□音楽　□図画工作　□家庭
□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無